

## 平成24年度 第4回地域医療推進部会議事録

1. 日 時 平成25年2月27日（水） 第3回帯広市健康生活支援審議会終了後
2. 場 所 帯広市役所 10階 第2会議室
3. 出席委員 堀修司部会長、小林靖副部会長、菊池英明委員、宇野雅樹委員、池添博彦委員、  
稲葉秀一専門委員、森茂樹専門委員、若田部紀代子専門委員

### 4. 会議次第

- (1) 前回会議の議事録（案）の確認
- (2) 平成25年度健康推進課関係予算（案）について
- (3) 帯広市夜間急病センターの再整備について

### 5. 会議内容

#### ○事務局

お晩でございます。ご案内差し上げておりました時刻より早いですが、出席予定の皆様がお揃いですので、ただ今から、平成24年度第4回地域医療推進部会を開会させていただきます。地域医療推進部会は委員9名でございますが、あらかじめ菅野専門員から欠席の御連絡をいただきましたので、本日の出席人数8名が委員の過半数となりましたことから、本日の部会が成立しておりますことをご報告申し上げます。

それでは、これより議事の進行につきましては、堀部会長にお願いいたします。

#### ○部会長

それでは、会議に入らせていただきます。

最初に前回会議の議事録の確認でございます。この議事録は、この場でご確認いただいた後、公開される予定となっております。議事録につきましては、ご質問やご意見があれば、お願いします。

【質問・意見なし】

#### ○部会長

なければ、議事録は了承されたものといたします。次に、「平成25年度健康推進課関係予算（案）について」を議題といたします。事務局から説明をお願いします。

#### ○事務局

平成25年度の健康推進課関係予算（案）につきまして、説明させていただきます。

資料1、「平成25年度の健康推進課予算の概要」ですが、総事業費は、11億6,967万4千円となっております。

保健衛生総務費は1億1,550万4千円で、内訳として保健衛生推進費が1,028万9千円、食・運動改善推進費が87万3千円、公衆浴場対策費が1,373万7千円などとなっております。

予防費は、4億4,690万2千円で、内訳としてがん検診・健康診査費が、1億6,896万3千円、予防接種費が、2億2,243万2千円、感染症予防費が、4,387万7千円などとなっております。

保健福祉センター費は、保健福祉センターの管理に要する経費で4,969万7千円です。

夜間急病診療費は、5億5,757万1千円となっており、内訳として、夜間急病センターの管理運営費が、1億2,932万8千円、在宅当番や二次救急医療など救急医療対策費が8,335万5千円、夜間急病センター改築費は移転に伴う建築工事費であり、3億4,488万8千円となっております。

資料の2、「平成25年度 健康推進課関係予算及び主な事業」ですが、平成21年度からの25年度までの5年間の予算額と対前年度の増減額の推移を、資料左側に記載しております。

予算額の推移として「折れ線グラフ」を見ていただきますと、平成21年度から22年度の合計額につきましては同程度で推移しておりましたが、平成23年度から増加傾向にあり、主な要因は、大腸がん検診の無料クーポン事業や子宮頸がんや細菌性髄膜炎などの3ワクチンの接種費用助成事業など、がん検診、予防接種経費の増によるものであります。平成25年度は更に夜間急病センター改築費等により、3億965万1千円の増となっております。

円グラフの平成25年度の予算の構成比は、夜間急病診療費47.7%、予防費が38.2%、保健衛生総務費9.9%の順となっており、夜間急病センター改築費により夜間急病診療費の割合が前年と比べ大きくなっております。

「平成25年度の主な事業」は、資料右側に記載しておりますが、「夜間急病センターの整備」につきましては、老朽化に伴う移転改築のため、平成25年度には建築工事を行い、平成26年度に開設を予定しております。

「がん検診の推進」につきましては、小規模事業所、生活保護者への個別訪問等により、がん検診等の周知・啓発、受診勧奨の実施や、乳がん・子宮がん検診の託児付き検診や女子大学生等へのがん教育を実施します。

「働き盛り世代の健康づくり」につきましては、帯広市内の企業に対して、働き盛り世代の健康意識を高めるためのスマートライフプロジェクトについて周知啓発し、職場全体で健康づくりの行動をしていただく支援を実施します。

また、市民健康診査等の検査項目のクレアチニン、尿酸を追加するほか、健康診査の結果、糖尿病があり合併症を起こす可能性の高い方等に対して、重症化予防のための保健指導の取組を強化します。

「自殺対策の推進」につきましては、帯広警察署と連携して自殺者の地域分析を実施します。また、自殺を考えている人のサインに気づき、支援につなげ、見守るといった適切な対応が図れるように、ゲートキーパーの養成を実施します。

説明は、以上でございます。

#### ○部会長

ただいまの事務局の説明につきまして、何かご質問やご意見はございますか。

#### ○委員

働き盛り世代の健康づくりの中で、健康診査の結果、糖尿病があり合併症を起こす可能性の高い方への保健指導の取組について、現在どのようなことを実施しているのでしょうか。

#### ○事務局

帯広市では、HbA1c（ヘモグロビンエーワンシー）の比率が、全道平均に比べても高いのが現状であり、糖尿病の有所見者の減少を図ることが大きな課題となっております。

食生活の改善及び運動の取組みなど生活改善の為の講座を、保健福祉センターまたは出向いて開設しておりますので、保健師が一定の指導の対象となる受診者に電話をし、その方々に講座の参加をしていただいております。

その中で、HbA1cの数値の計測を行うと共に、日常生活の改善の結果が、どのようにHbA1cの改善に反映されるのか数値の観察をしております。その結果として9割を超える方が改善しておりますので、生活習慣を通じ糖尿病の有所見者から改善に向けての努力をしているものでございます。

糖尿病の重症化対策が国をあげての大きな課題となっておりますことから、特にHbA1cの高数値の方につきましては、医師の指導の下、保健師が個別に面談をするなど改善に取り組んでおりますが、可能な分野につきましては、保健師が運動支援や食生活の指導を行い、改善を図ることを取組んで参りたいと思っております。

平成25年度の予算にスマートライフプロジェクトを計上しておりますが、働き盛り世代の方は健康課題を抱えているにもかかわらず、忙しくて検査や治療を受けられない状態ですので、厚生省が取組んでおりますスマートライフプロジェクトにおいて食生活の改善、運動、喫煙の3つの課題に向け、帯広市内の事業所に参加をしていただき、職場ぐるみで取組んでいただけるよう進めていこうと考えております。

#### ○部会長

他になければ、質疑を終了いたします。

次に「帯広市夜間急病センターの再整備について」を事務局から説明願います。

#### ○事務局

帯広市夜間急病センターの再整備につきましては、平成26年4月の移転に向け、平成24年度予算で基本設計・実施設計に取り組んできたものであり、昨年11月に開催しました第3回地域医療推進部会では基本設計の概要をご説明させていただきましたが、本日は実施設計の概要を含めてご説明申し上げます。

資料3は帯広市夜間急病センターの再整備について、整備の基本方針は3つの方針を掲げております。

1つ目は初期・二次・三次救急医療機関の役割分担を明確化し、二次、三次救急医療機関の負担軽減を図ること。

2つ目は市民が安心して初期救急医療を受けることができるよう医療機関及び関係団体との連携を強化し、診療体制の充実を図ること。

3つ目は在宅当番医制（内科・小児科）で実施されている休日等診療について「センター化」を実施することとしております。

施設の計画概要の「設計のコンセプト」は3点掲げております。

1つ目は市民に優しく、周辺住宅との景観形成に配慮したデザインとしたこと。

2つ目はユニバーサルデザインの考え方にに基づき、子どもから高齢者まで多くの市民が利用しやすい施設としたこと。

3つ目省エネ等も考慮し、環境に配慮した施設としたものであります。

「施設の概要」及び「施設の主な機能」につきましては、基本設計で説明しました内容を掲載しております。

建設予定地は帯広市柏林台西町2丁目の一部で、公営住宅の建替えにより現在は更地となってい

る地域でございます。建物は鉄筋コンクリート造平屋建、延床面積は約680㎡とし、駐車スペースを有効に確保するため、建物は敷地内北側の中央に配置し、駐車場は身障者用も含め約80台を確保してまいります。

車両の入口は、弥生新道からの進入を主な入口としまして、柏林台2号線は出入口としております。救急患者の搬入は、弥生新道から進入し、建物の西側に救急車の出入口を設けてございます。

建物内の施設配置等は平面図に記載しており、基本設計とほぼ同じであります。診察室、処置室、点滴・経過観察室、感染隔離室、X線室、受付、事務室、薬局、待合ホール等を設けます。

施設の主な機能としましては、現在は在宅当番院制によって実施されております休日診療などや午後9時～翌朝8時までの夜間診療、またインフルエンザ等の感染症流行時に対応できる診察室数や機能を備えました。

更に、新型インフルエンザ等の強力な感染症に備え、減圧機能を有する感染隔離室を設けるほか、すべての方にやさしい施設となるようゆったりとした待合ホール、授乳室、小上りスペース、多目的トイレ等を設けました。

また、初期救急での迅速な診断を行うため、X線装置及び各種検査機器を導入することや院内薬局や救急専用入口、医師・看護師等の医療スタッフの動線に配慮した診察部門を設け、環境配慮として診察室を除く室内照明にはLEDを活用します。

「施設及び外構計画について」は、イメージのパース図をご覧くださいますと、環境配慮として南面屋上に太陽光発電を設置します。太陽光発電につきましては、主に日中の事務室における機器等の電源を供給するものでございます。

また、センター化に伴う休日診療や健康教育等での日中の利用も考慮し、中央の吹き抜けには明採りを設け、開放感があり自然光を取り込める待合・ホールとしております。

周辺には、将来的な成長を想定し、維持管理が可能な低木の植え込みを計画しております。

資料4、帯広市夜間急病センターの再整備に係る取組み状況につきましては、昨年11月21日開催の第3回地域医療推進部会までは、これまでの説明と重複するものです。

前回部会以降の取組み状況として、1月9日に開催された市議会厚生委員会において、実施設計等の内容を報告、質疑を行ったほか、帯広市救急医療対策検討会議については2月4日に幹事会、2月14日に検討会議の親会をそれぞれ開催し、関係機関等に説明させていただきました。

2月20日には建設予算を含む平成25年度帯広市当初予算について記者発表を行い、来る3月1日に開会されます定例市議会で審議をいただく予定です。

説明は以上でございます。

#### ○部会長

ただいまの事務局の説明につきまして、何かご質問やご意見はございますか。

#### ○委員

嘔吐したものが感染源となるノロウイルスなどの患者の対応を考え、感染隔離室の中にトイレやオムツ室は設置されているのでしょうか。

#### ○委員

感染隔離室は、ノロウイルスなどの感染症を考えている場所ではなく、減圧機能を備えた部屋となっており、新型インフルエンザなどを念頭において整備を考えております。

ノロウイルスは、手洗いや排泄物の取り扱いに注意をしていくしかないのではと思います。

○事務局

新型インフルエンザなどのウイルスが拡散しないような配慮をしたのが整備の目的であります。ノロウイルスは排泄物、嘔吐物が感染ルートであることは承知しておりますので、施設整備とは別に、ノロウイルスのような感染症が多発したときの施設の運営面、人的資源も含めいろいろな運営を考えていかなければならないと考えております。

○部会長

よろしいでしょうか。他にご質問ございますか。

○委員

ボイラー室はどちらに配置しておりますか。

○事務局

ボイラーではなく、EHPというヒートポンプで熱交換する暖房器具を考えており、ボイラー室は必要ない設計になっておりますが、給湯のみ天然ガスを考えておりますので、物品庫（4）に小さな給湯用のボイラーを設置することになっております。

○部会長

よろしいでしょうか。他に何かございますか。

○委員

院内薬局に出向する薬剤師についてはどのようになっていますか。

○事務局

院内薬局、X線室の配置も施設整備しておりますことから、センター化に向け、薬剤師会や医師会の皆様にも情報提供して、ご検討願うことにしております。

現在、診療体制の確立に向けた協議をしておりますので、具体化した段階で更に関係団体との出向または協力体制について協議を加速させていきたいと考えている所でございます。

○部会長

センター化の体制をとるにあたり、帯広市内の開業医の先生だけの協力が必要だが、全員が賛成してくれるわけではありません。

センター化に協力していただける先生が少人数であれば、個人の対応回数も多くなりますので、帯広市近郊の内科・小児科の先生とも協議し、対応人数を増やすことを考えていかなければならないと思います。

○委員

薬剤師もその体制に併せて協議しないといけないと思います。

○部会長

ぜひお願いしたいと思います。

他にご質問ございませんでしょうか。なければその他で事務局からありますか。

○事務局

次回の地域医療推進部会の日程ですが、堀部会長と調整のうえ、委員の皆様にご案内させていただきますので、よろしくお願いいたします。

○部会長

以上で予定されている議事は終了いたしました。

本日は、これで閉会といたします。

お疲れ様でした。